

---

# 桁石鉄道 S12型蒸気機関車

桁石鉄道?

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桁石鉄道 S12型蒸気機関車

### 【Nコード】

N6991T

### 【作者名】

桁石鉄道？

### 【あらすじ】

太平洋戦争直前に産声を上げ、桁石市街を影から支え続けた兄弟機関車。

これはその弟分、桁石鉄道S12型蒸気機関車の物語である。

昭和10年頃。

桁石鉄道は太平洋戦争に伴う金属供用に苦しんでいた。

同じ頃、桁石の車庫の片隅に蒸気機関車の走り装置が転がっていた。この走り装置、鉄道関係者が存在自体を忘れていたため、軍に供出されなかったのである。

時を同じくして、空襲を食らい廃線となった他線から、

木造2軸客車と蒸気機関車用のボイラーが工場に運び込まれた。

客車とボイラーを眺めていた工場長は、内線で設計課に言い放った、

工「工場裏に蒸気機関車の走り装置があつたはずだ

それを客車にくつつけた蒸気動車を設計しろ」

設「ボイラーはどうしますか？」

工「ボイラーはこの間のヤツを使えばいい」

設「煙突の持ち合わせがありません」

工「煙突はその辺にある鉄パイプを適当に乗つけちまえば問題ない」

設「水タンクはどうしましょうか」

工「うゝむ・・・よし、桁石鉄工所のオヤジに掛け合つてこよう」

そして数週間後、蒸気動車・・・もとい蒸気機関車S12型が誕生した。

客車の一端にボイラーと走り装置を付けただけという、

アンバランスな車両だが、時期が時期だけに関係官庁からの使用許可が下りた。

さらに部類が「気動車」ではなく「機関車」になっているのである。このS12型は元々客室だった所に水槽と石炭庫を設けたため、お客を乗せるスペースが無くなってしまったのである。

しかし燃料というデッドウェイトを積んだS12型は、燃料満タン時に、最高出力18・7馬力という大出力を叩き出した。この予想外の大馬力によって戦時設計による質の悪いポンコツ蒸機を、

一気に本線上から追い出していった。

見た目はお世辞にもスマートではないが、動力近代化後も生き残り、河原町線の限定運用として、兄貴分S11と共に昭和47年まで走り続けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6991t/>

---

桁石鉄道 S12型蒸気機関車

2011年5月31日09時25分発行